中勢北部サイエンスシティ

「くらしを創る」取り組み

暮らしやすいまちの条件、それは、そこに住み、学び、働き、憩うというさまざまな日常生活を営む機能が充足されていること、そして、人々が織り成すさまざまな活動の息吹が感じられることです。

このため、中勢バイパスをはじめとした国・県道の整備促進や、生活道路、上下水道など生活基盤の整備推進に努めるとともに、新最終処分場、新斎場、屋内総合スポーツ施設、一部不通となっているJR名松線の早期復旧といった市民生活に関連する重要課題につきましては、これまでの市民の皆さまの意向を形にするためにも、立ち止まることなく取り組んでまいります。

また、地域経済の牽引役（けんいんやく）を果たす中勢北部サイエンスシティやニューファクトリーひさいにつきましては、現在、企業からの引き合いもあるところであり、こうした状況を逸することなく、トップセールスも含めた積極的な企業誘致活動を進めるほか、新産業の育成や中小企業の支援などの産業振興を通じた雇用の創出にも努めてまいります。これとともに、働きやすく、子育てのしやすい環境整備として、保育所の待機児童解消に向けた施設整備を促進してまいります。

人々の多様な交流の拠点となります都市核や副都市核などにつきましては、将来にわたり、本市の活力を創出する拠点として、議員各位をはじめ市民の皆さま、関係者の皆さまのご意見を伺いつつ、中長期的な展望に立って取り組んでまいります。

施策を推進するために

諸施策の推進に当たっては、地域経済、地域社会の活力低下が懸念されている中で、現状の施策を推進することだけに満足することなく、先導的な施策の実施、新たな地域資源の開発など、積極的な取り組みを進める一方で、しっかりとした財政基盤を保ちつつ、できる限り市民の皆さまの負担を増やすことなく、より満足度の高い施策の展開に努めてまいります。

行政サービスの提供に当たっては、複雑、多様化する市民の皆さまのニーズの中で、真に必要なサービスが何かをしっかりと見極めるとともに、健全性を念頭に置いた財政運営に努めていかなければなりません。

事務事業の立案や実施に際しては、絶えず、市民感覚を持ちながら、その有効性や効率性を徹底的に検証する行財政改革の取り組みを強力に推し進めてまいります。

さらに、市民の皆さまへの情報の提供、共有に努めるとともに、とりわけ、津市の良さを発見し、全国はもとより、海外にも向けた情報発信を積極的に行い、外部からの活力を呼び込むシティーセールスを進めることにより、津市の実力を高めてまいりたいと考えており、それが、市民の皆さまの津市に住んでいるという誇りになるものと確信しております。

津市森林セラピーロード（大洞石畳コース）

おわりに

多くの都市を歩き、幾度か地方行政に携わり、そして、郷土の地を踏みしめました。

今、私が携えたものは、輝かしい未来の津市への切符です。進むべき軌道、それは、従来の延長線上に敷かれたものではありません。皆さまとともに築き上げてまいります。

どこよりも素晴らしい地にたどり着けるよう、その志と情熱を持ち続け、市民の皆さまが「私は津に住んでいます。」と胸を張って誇らしく言っていただけるよう、「風格のある県都・津市」の創造に向け、渾身（こんしん）の努力を傾けてまいります。